〈寄稿〉

# 未来ある子どもと皆さんへ
## ―無限の可能性を求めて―

馬　越　恵　子

この度、同朋大学をいよいよ卒業することとなりました。７年間という短い期間でありましたが、とても楽しく充実した日々を過ごすことができましたことは、ひとえに皆様方のお力添えによるものと心より感謝申し上げます。

私の略歴を見て頂ければお分かりのように、人生の大半を名古屋市立の幼稚園に勤務しておりました。そもそも卒業大学は、当時まだ数少ないであろう幼稚園教員養成課程が創設されたばかりの第２回卒業生で、施設設備や環境の整っていない中での学生生活でした。しかし、教育心理学の故種橋正徳教授、教育原理の故西頭三雄児教授両先生から学んだ「信頼関係」や「遊びとは没頭・集中することである」などのキーワードは今でも思い出されます。そして小学校か幼稚園か迷いながら、結果パイオニア精神で名古屋市立幼稚園に勤務して38年間、頼れる仲間がいてこそ定年まで続いたと思っております。

その中で学んだことは、「子どもたちの無限なる可能性」です。「これで良いと思ったら幼稚園の先生を辞めようと思うが、幼児教育には答えも正解もない。だから今年もまた１年…。」という38年間だったように思います。子どもたちのことで「どうしたらよいのかな」と思い悩み、あの手この手と手掛かりを探るうちに、はっと気付かされる子どもたちの成長と変化にどれだけ驚かされ励まされたことでしょう。子どもたちの一面からしか見て

いない自分の捉え方の狭さ・甘さを常に思い知らされた日々だったように思います。子どもたちを様々な角度から多面的に捉えることの大切さは、自分一人ではなく、周りの同僚や仲間、様々な人々の子どもの捉え方や保育について話し合い学び合う中で気付くことができました。今でもその思いは変わりません。その中で、子どもたちの「限りない無限の可能性」に出会い、信じてまた明日も、という繰り返しだったように思います。

そのことは、同朋大学に着任して、大学生と共に過ごす生活の中でもさらに思いを強くしました。子どもだけではなく、18歳を過ぎた皆さんの４年間の成長と変化に「無限の可能性」を見出したのです。学生という身分が最後となるこの４年間で、最終自分の進路を決めるという選択をしていく皆さん。そこからいよいよ社会人という第二の人生に向かう皆さんに「無限の可能性」を感じます。そして「人に親切で優しく」「福祉の心を持ち」「実直で誠実な」皆さんに、いつまでもエールを送りたいと思います。

人には様々な思いや考えがあり、みんな違っています。「みんな違ってみんないい（金子みすゞ）」けれど、その違いを互いに認め受け入れ合い、共通の目的に向かった時には、気が合う・合わないにかかわらず、一人一人が自分の力を十分発揮しながら互いの持ち味を認め受け入れ力を合わせれば、必ず成し遂げることができると信じています。これは昔も今も変わらず私が５歳児の学年の重点目標としてきたことです。このことは大人になってもどのような職業に就こうとも同じではないかと思います。

同朋大学で、様々な学生や教職員の皆様と出会い、また最後の２年間は同朋幼稚園長として多くの子どもたちと保護者や先生方と出会ったことは忘れられず、感謝しかありません。未来ある子どもと皆さんに無限の可能性が広がりますように、そして、同朋幼稚園、同朋大学を始めとする同朋学園がいつまでも輝き発展し続きますことを心よりお祈り申し上げます。

７年間どうもありがとうございました。

2020年12月吉日